

【作業療法学科】

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
医療分野		専門課程	作業療法学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼間	103/単位	960 時間	555 時間	1090 時間		
			3055時間				
生徒総定員数		うち留学生数	専任教員数	総教員数			
75		0人	6人	6人			

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
<p>(概要)</p> <p>次年度の授業計画の立案については、前年度1月に実施する教員会議において、担当教員の選定を行う。その上で、学科毎に仮シラバスを作成し再度教員会議にて授業内容のつき合せ、学生評価が適切に実施できているかの相互確認を実施し作成する。</p> <p>年度開始前にHPにて公表するとともに、年度はじめの学生オリエンテーションにて該当学生へのシラバス配布ならびに説明を実施している。</p>
成績評価の基準・方法
<p>(概要)</p> <p>成績評価の基準</p> <p>各科目の総合成績は100点を満点とし次の区分にて評定する</p> <p>優：80点以上</p> <p>良：70～79点まで</p> <p>可：60～69点まで</p> <p>不可：59点以下</p> <p>やむを得ず試験を受けることが出来なかったものは追試験を受験することができる。</p> <p>また不可の科目については再学習を徹底させたのち申請にて再試験を受験することができる。</p> <p>授業科目の出席時間数が講義及び演習及び実習において5分の4に達しな</p>

い者は、その科目について評定を受けることができない。（ただし学校長が認める正当な理由がある場合にはこの限りではない。）

成績評価の方法

授業科目の成績評定は各学期末に行う試験・実習の成績・履修状況等を総合的に勘案して、試験やレポート・OSCEによって行う。また試験の結果は各学科責任者（学科長）によって適性に試験が実施されたか確認を得ている。最終的な単位の認定は学年末に実施される単位認定会議にて協議のもと学校長によって認定され、進級ならびに卒業が認定される。

学修が適切になされているかを授業経過の中で小テスト等を用いて評価し必要に応じて補習・補講を実施するなど学生の学習成果を随時確認するように努力している。

欠席した授業については補填課題等を確実に実施し授業内容を適切に理解した状態で単位を認定させている。

卒業・進級の認定基準

（概要）

卒業の認定について

本校の教育理念として、確かな知識と豊かな感性を育み、障害を持つ人々や高齢者のよき援助、支援者として主体的に活動できる学生の育成を目的としている。予防としての保健活動やスポーツ活動・リハビリテーション医療や地域リハビリテーションなど、全体を通して活躍する理学療法士・作業療法士の養成を目指している。

このことから本校の卒業の認定においては、所定の授業科目のすべての試験に合格し、かつ卒業要件を満たす単位を履修したものについて卒業判定会議を経て学校長が卒業を認定する。

学修支援等

（概要）

担任制度を設けることにより、学生個人の能力や課題を認知しやすくしている。また通年を通して個人面談を実施し、学生個人の理解度の聴取や自宅学習などについての指導を実施している。

授業の時間以外に補習・補講を実施し、学生の理解不十分な科目について支援を実施している。

授業の形態についてもアクティブラーニングを多用し、自ら学び理解するという学習意欲の向上ならびに知識の定着環境を意図的に設けている。

国家試験への対策として特別講義等を実施している。

(中退防止・中退者支援のための取組)

入学前教育を実施している。入学前教育の目的として、①学習意欲の継続—入試／合格発表から入学までの約半年間ありこの期間でこれまでの学習習慣を崩さないようにする。②新たな学びの事前学習—医療系は高校までの内容とは違い専門的な内容を多く学ぶため、学習内容のカルチャーショックを軽減する。③入学までに心の不安の軽減—学習内容の専門性以外にも生活環境が大きく変わる学生のために心理的ケアを実施する。大きく3つの目標を具体的には専門科目の学習に緩やかに移行できるようCBT (Web コンテンツ) やテキストを提供する。また、スクーリングとして入学までに3回程度来校させ、事前学習の進捗確認や理解度テストを実施する。また、保護者を含め面談を実施する。

初年次教育に力を入れている。本学園の学術交流協定校である学校法人智晴学園琉球リハビリテーション学院 (儀間智理事長／沖縄県国頭郡金武町) の全面協力のもと、3泊4日の共同生活・協同活動を通して、新入生に対する入学前教育から初年次教育への円滑な移行を図るとともに、海洋リハビリテーションを体験する総合的教育プログラムである。また、同学院の学生及び教職員との交流の場も設けられ、同志が身近にいることを肌で感じることで士気の維持向上につながります。そして、アメリカンビレッジや美ら海水族館などの観光も含まれており、学修以外の時間も多く配分され、本学生と教職員がより多くの時間を共有することで、その後における教育効果を期待している。

在学中は定期的な面談の中で、学生の学習意欲や家族的な背景について情報収集を行い、継続的な学習が困難と予想される学生については頻回に面談を実施している。またその情報はすべての教員にて共有され、多角的な支援を目指している。また早期から保護者への連絡や面談を実施し、情報の共有や支援の要請を実施している。

友人関係などを豊かにし共に学ぶことのできる円滑な学修環境を整えるために、学外での課外活動などを年に複数回実施し、学生同士の仲間づくり支援を実施している。

臨床心理や学生心理について習熟している教員を配置し、完全に守秘義務の発生する環境での相談体制をとっている。